

阿波の歴史を探る

ちよつと行ってみいへんで
〈特別編〉

6月26日（月）、広報委員会終了後に当日集まった委員で「住吉神社」と「蓮花寺」を訪れました。

「住吉・城東の歴史」より



「住吉神社」と「蓮花寺」

「淡路島はかつて阿波藩の一部であった」という事実をご存知でしょうか？

天正13年（1585）、豊臣の家臣、蜂須賀家政の阿波（徳島）藩は17万6,000石、その後、関ヶ原の戦い後、徳川幕府の江戸時代、元和元年（1615）「大坂夏の陣」での蜂須賀至鎮の活躍で淡路国8万1,000石を加増され、25万7,000石としていました。それが今、淡路島は兵庫県となっています。

何故か？その謎を解く一つのカギが徳島市住吉1丁目にある「大悲山宝珠院蓮花寺」にあります。

「住吉神社」

住吉神社は、徳島中央公園の城山から新聞放送会館を越え、徳住橋を渡り更に東へ真つすぐ数百メートルの場所（徳島市住吉1）にあります。

鎌倉時代、正安2年（1300）阿波の地に遷座、その後、阿波国守護細川家によって滑山（城山）東側の麓にて護持され、天正14年（1586）蜂須賀家政公の入国より37年間城内鎮守として崇敬されました。元和9年（1623）、蜂須賀忠英公が、藤五郎島と言われていた現在地に遷座し住吉島と改め今に至っています。

当時の鳥居が現存し、また境内社六社・蛭子神社、天神社、春日神社、隅野神社、氷川神社、稻荷神社が建立遷座している稀有な神社です。寛永18年（1642）住吉神社の傍ら南隣に蓮花寺を移転し、住吉神社の別当寺としました。

「蓮花寺」最後の切腹があった場所

寛永10年（1634）蜂須賀家政公が城下の寺島に創建し、寺町、福島と移され、寛永18年に現在地に移転され蓮花寺と改称されるまでは、大日寺と称されていました。本尊は地蔵菩薩がまつられています。参勤交代時海上安全の祈願所とされていた関係から、藩絵師、森崎春潮の藩主参勤交代の出船、入船屏風絵（六曲一双の「参勤交代渡海図屏風」）が寄贈されたと言われています。

現在の蓮花寺本堂と山門は平成20年（2008）に再建されました。

それでは、謎解きです。答えは庚午事変（稲田騒動）にあります。

～庚午事変（稲田騒動）～

事の起こりは、中央集権を進める明治新政府が版籍奉還に続いて行った明治2年の禄制改革でした。従来の大名家を華族、大名直属の家臣を士族、家臣の家臣を卒族とするなどし、それぞれの身分に対応した扶持米を政府から支給することとしました。士族であっても収入は従前の1割程度となり、卒族とされた下級武士にいたっては、僅かな扶持米が藩から一時だけ支給されるものでした。

蜂須賀氏直属の家臣は士族とされたものの、稲田氏の家臣が藩主蜂須賀氏の直属家臣でないということで、卒族と位置づけられ生活の基盤がなくなる立場となりました。

危機感をもった稲田氏の重臣は、徳島藩に士族待遇とするよう繰り返し要請したものの叶わず仕舞い。稲田家臣は士族への編入と淡路を徳島藩から分離独立をするなどを中央政府に嘆願する運動を起こします。これらの行動が蜂須賀家臣には、蜂須賀家に対する反逆行為で藩を分断する裏切りだとして激しい怒りを買ひ、上司の命令も聞かずに過激派の決起となりました。

明治3年（1870）5月13日早朝、蜂須賀家臣ら百余人からなる青年藩士団が、元蜂須賀藩家老であった稲田邦植の洲本別邸や学問所、稲田家臣の屋敷を襲い、火を放ちました。稲田家側の被害は、自決2人、即死15人、重傷6人、軽傷14人、多数の建物などが消失する大惨事でした。この年が庚午の年であったことから、庚午事変（稲田騒動とも）と呼ばれています。

この事件に対する明治政府からの処分は予想以上に厳しく、徳島藩側首謀者10人が斬首（後に切腹）、八丈島への終身流刑27人、その他禁固・謹慎など多数。蜂須賀氏は、これらの行動は、蜂須賀家への忠誠心の発露であると中央政府に請願し、藩知事が処分を任されました。

明治3年（1870）9月、ここ住吉島・蓮花寺で4人、助任の万福寺で4人、東京の藩邸で2人に対し、武士の矜持が尊重され切腹となりました。日本の法制史上最後の切腹となった蓮花寺の4人の中の1人、藤岡次郎太夫の墓と庚午事変の石碑が境内に立っています。

尚、明治22年（1889）の大日本帝国憲法発布による大赦により全員罪名は消滅しました。一方、稲田側に対しては、士族への編入は認めた上で、当時、極地と言われた北海道への強制移住という厳しいものでした。

明治維新の新時代を拓く大切な時に、徳島は有為の人材を多数失うとともに、後に淡路をも失う遠因ともなった痛恨の大事件でした。



(写真撮影：岩佐委員)